



確かな学力の向上をめざして【3月】

自分の考えや気持ちを英語で伝え合う力の育成に向けて

英語教育では、「言語活動を通して英語4技能をバランスよく育成する」ことを小中高を貫くテーマとして設定しています。今年度の中学校英語訪問は、5月から9月にかけて行いました。訪問を通して、現行の学習指導要領で求められていることを先生方が意識され、生徒のためにたくさんの工夫をこらして実践していることが感じられました。

英語の授業づくりにおいて意識していただいたこと



1 授業での「英語使用」

- 英語を用いて授業をすることを多くの先生方が意識して実践していました。教師の英語使用が増えると生徒のインプットも増え、アウトプットにもつながります。



2 言語活動を「繰り返し」実施する

- 言語活動を繰り返し行い、子どもたちが何度もチャレンジできる機会を作っていました。自分の学びを自覚しながら改善を図る取組の中で、メタ認知の力も育みます。



3 技能（領域）統合

- 「話す活動で発話したことを書く」、「英文を読んだ内容について英語や日本語で伝え合う」など、複数の技能（領域）統合を意識した流れや活動が工夫されていました。

★このように、英語訪問では先生方の授業改善や意識の向上が図られていることがうかがえました。今後、子どもたちが自分の考えや気持ちを伝え合う力を身に付けられるよう、以下の視点を踏まえ、さらなるステップアップをめざして取り組んでください。

さらなるステップアップをめざして

目的意識・相手意識

- 相手意識をもつことが、どんな内容をどのように伝えようか、子どもたちが本気で考えることにつながります。伝え合いたくなる話題、場面設定を工夫しましょう。

個への手立て

- 教室には、進みが早い子、ゆっくりな子、いろいろな児童生徒がいます。1時間という限られた時間の中で、どの子も達成感を感じられる手立てを考えてみましょう。

小学校の学びの活用

- 小と中の教科書には似たような言語活動があります。小学校で学んだことを基にした授業展開することで、心のハードルを下げ、やる気を高めることができます。

Point

- ★子どもたちが自分で考え、工夫できる活動を設定しましょう。
- ★どの子にとっても学びのある授業展開にしましょう。
- ★学びの連続性を意識した指導をしましょう。

小学校の教科書を使って、小学校で行った言語活動を実際に導入で実施した中学校の先生の取組がありました！



英語教育実施状況調査及び鳥取県独自調査の結果より

(1) 生徒の英語力の状況

※ () は令和5年度数値

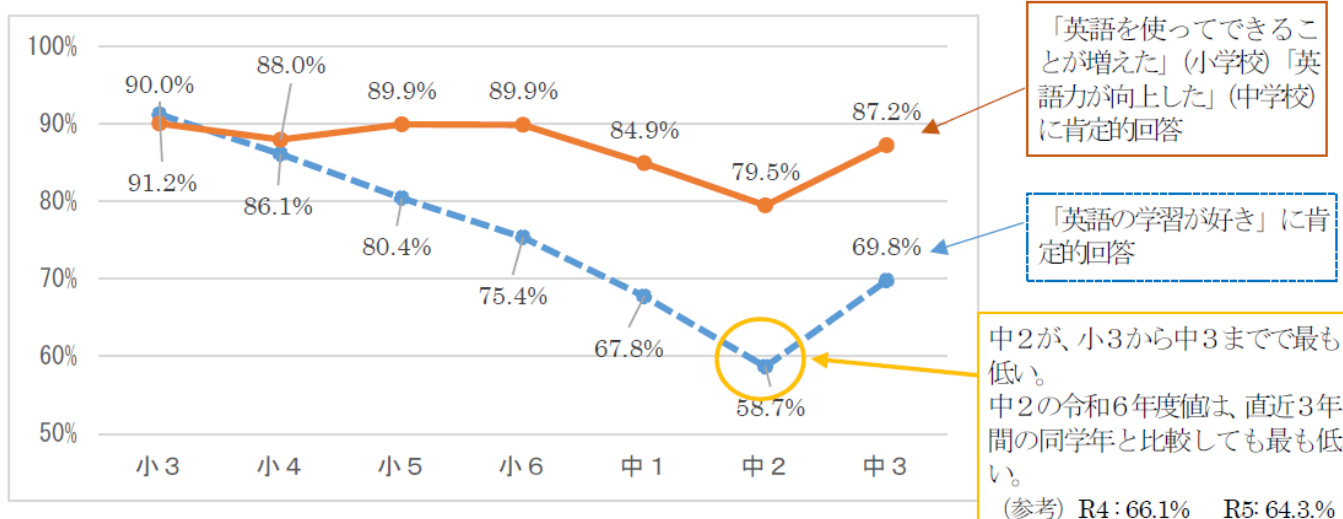
中学3年12月段階で英検3級以上（C E F R A 1レベル以上）相当の英語力を有する生徒の割合
52.5%（51.0%）

→うち、英検3級相当以上を実際に取得している生徒の割合：**18.8%**（23.7%）

→うち、英検3級相当以上の英語力を有すると思われる生徒の割合：**33.7%**（27.2%）



(2) 児童生徒の英語学習に関する自己認識



(3) 小中連携の状況について

- ・中学校と英語教育について連携していると回答した学校の割合：**74.4%**（令和5年度調査無）
- ・小学校と英語教育について連携していると回答した学校の割合：**77.6%**（80.4%）

小中の学びの連続性を高めるためにも、小中連携を今まで以上に進めていきましょう！

英検IBA結果活用シートについて

英検IBAの結果を指導改善に活用していただくため、同一集団の伸びや過年度との比較が技能ごとに確認できるシートを作成し、配布しました。詳しくは、右のような資料を配布していますので、ぜひ各学校で御活用ください！

生徒用シートもあります。生徒が自分でスコアを入力することで、伸びを確認できます！

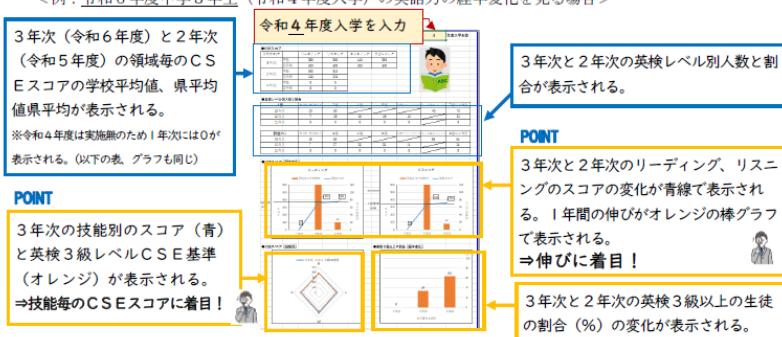
生徒が自分の成長を自覚できると、自信や意欲につながるね！



3 英検 IBA 結果活用表①の見方

オレンジ色のセルに該当学年の入学年度を入力すると、同一集団の経年変化を見ることができる。

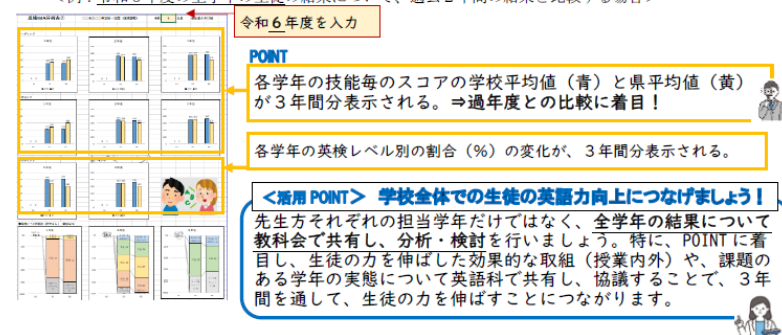
＜例：令和6年度中学3年生（令和4年度入学）の英語力の経年変化を見る場合＞



4 英検 IBA 結果活用表②の見方

薄いオレンジ色のセルに該当年度を入力すると同学年の過去2年間の結果と比較することができる。

＜例：令和6年度の全学年の生徒の結果について、過去2年間の結果と比較する場合＞



■令和6年度中部版スクラム教育事業（第7期1年目）報告

～令和7年度は第7期(2年目)として中部版スクラム教育事業を推進します！～

今年度、中部版スクラム教育事業は第7期1年目の取組を行いました。第6期までの取組の成果と課題を踏まえ、時代の流れや学校現場のニーズに合わせて新しい取組も取り入れました。令和7年度は、第7期2年目になりますので、今年度の取組を基本的に踏襲しつつ、より現場のニーズに合わせたものにバージョンアップして実施する予定です。この歴史ある中部版スクラム教育事業を、中部地区の大きな強みとして、各機関が相互に連携しながら、中部地区の課題を解決できるよう、さらに強靱なスクラムを組んでいきます。

【取組の3つの柱】

○教育DXの推進（NEW!）

○研究推進の活性化

○教職員の指導力向上

※3つの柱は学習指導要領の充実についての内容を含む。



★中部版スクラム教育事業とは

中部地区5市町教育委員会、小中学校長会、高等学校課、中部教育局で『スクラム』を組み、連携して中部地区の「確かな学力の向上」と「不登校及び問題行動」等の教育課題の解決をめざして取り組んでいます。平成24年度から2年を一期として取り組んでおり、令和6年度は「第7期（1年目）」の取組を行いました。

令和6年度の取組報告



★【新規】学習者主体の学びの実現に向けた教育DX推進研修会（参集型研修）

●令和6年8月7日（水）@はごろもホール

⇒講義・演習、実践紹介「これからの授業のイメージづくり」
グループ別協議・情報交換「これからの授業へ向かうために」

※教育DXの推進をめざし、本研修の内容や進め方そのものが学習者主体の授業例となることを意図して、参加者が自ら学び取る研修スタイルとなるよう設計しました。これからの時代に求められる学習観や授業の在り方について、一人一台端末を活用して講義やグループ協議を実施しました。



研究主任等研修会（参集型研修）

●令和6年4月4日（木）@中部総合事務所

⇒講義及び事例発表「今年度の研究推進にあたって」

※事例発表：琴浦町立浦安小学校 山崎 祥子 教諭
倉吉市立久米中学校 明里 祐輔 教諭

グループ別協議・情報交換

※各学校における全教職員による協働的な研究実践の活性化を図ることを目的に、講義と実践発表、グループ協議を実施しました。実践発表では、2人の研究主任の先生が昨年度どのように取組を進めてきたかについて具体的な実践を発表してくださり、各研究主任にとって今年度の取組を進める上で大いに参考になりました。



生徒指導担当者研修会（参集型研修）

●第1回：令和6年4月22日（月）@中部総合事務所

⇒（前半）講義「学校が取り組む生徒指導について」

⇒（後半）演習「いじめ事案に対する適切な対応について」

●第2回：令和6年8月19日（月）@中部総合事務所

⇒事例発表：湯梨浜町立羽合小学校 平井 尚希 教諭

講義及び演習「子どもに寄り添った支援のあり方」

講師：いじめ・不登校総合対策センター 次長 澤 勝也 氏

※今年度は年2回の開催とし、第1回は生徒指導担当者を対象にいじめ問題への対応、第2回は教育相談担当者を対象に不登校や問題行動への対応について研修を実施しました。中部地区の喫緊の課題である、いじめ・不登校、問題行動等の生徒指導上の諸課題の解決に向けて、講義や各学校の担当者同士での演習・情報交換を通して、生徒指導・教育相談担当者としての知識や見識を深めました。



研究主任を対象とした学校訪問（訪問型）

●5月～2月末（年2回）

⇒各学校の研究主任を訪問し、校内研究の取組について進捗状況や成果と課題を確認したり、研究の方向性等について協議したりしました。

※校内研究会や要請訪問時を中心に、年間を通して研究主任の取組へのサポートを行いました。

講師を対象とした学校訪問（訪問型）

●5月～12月（年2回）

⇒教職1・2年目の講師を対象に、授業参観と事後面談での指導助言を通して、講師の授業力・指導力向上を支援しました。

※年間2回の訪問を通して各講師それぞれの良さや課題を共有し、1回目と2回目での成長や変容を見取り伝えることで、年間を通して授業づくり等のサポートを行いました。

市町教育委員会と中部教育局が連携した取組

⇒上記の取組の他にも、市町教育委員会と中部教育局の相互の連携強化を図るため、中部版スクラム教育の枠組みを活用して、以下の取組を行っています。

①各市町教育委員会の取組を中部教育局が支援・協力する取組

②5市町教育委員会と中部教育局が協働する取組

③市町教育委員会それぞれが行う取組を相互に活用したり運営協力したりする取組

【令和6年度の取組の例】

⇒「学年主任サポートセミナー」「学校経営に係る研修会」（倉吉市）、「2学期に役立つ学級経営研修会」（湯梨浜町）、「三朝町特別支援教育担当者研修会」（三朝町）、「北栄町英語教育研究会」（北栄町）、「琴浦町小・中学校外国語担当者研修会」（琴浦町）など

令和7年度は第7期の2年目の取組になります。これまでの取組がさらに学校や先生方にとって有益なものになるように、来年度はこの取組をよりブラッシュアップしていきたいと考えています！

